

# 「しんわルネッサンス」稼動！！

自立

27ページ



## 自動車部品の 「福祉工場」開設

知的障害者の自立を図ろうと、社会福祉法人「進和学園」（平塚市）が自動車部品の組み立て加工を行う「しんわルネッサンス福祉工場」を開設した。

# 神奈川 新 THE KANAGAWA 聞

2006年  
[平成18年]

3/25 [土曜日]

(1面 目次記事)

→ 裏面参照

(27ページ 社会面記事)



(「しんわルネッサンス」全景)

直接雇用で知的障害者の自立を図ろうと、社会福祉法人「進和学園」(平塚市万田、出縄明理事長)が今月、自動車部品を組み立て加工を行う「しんわルネッサンス福祉工場」を同市内に開設した。雇用者は現在十五人。同学園では「障害者

# 福祉工場が「好発進」

(丸山 孝)

## 知的障害者 直接雇用後押し

県内で知的障害者を雇用する福祉工場は、横浜市でクリーニング業を営む「ダイア磯子」(一九九二年設立)に次いで二例目。進和学園は、障害者に適切な指導を与えられるノウハウやスタッフ、授産施設での実績などが評価され、県から今月、工場の設置許可を受けた。雇用者は月十二万円ほどの収入が得られる。

鉄筋三階建て、総床面積約四千六百平方メートルの施設は、工場や管理棟、食堂などを備える。総工費は八億九千万円。半額近くを国と県、平塚市の補助金で賄った。就労者は、

## 自動車部品組み立て加工



同学園が運営する授産施設の利用者が採用試験で選設の中から作業能力の高選ばれた。

同学園の授産施設は、一九七四年九月から本田

技研工業の下請け業務を受注しており、福祉工場はその仕事を継続して請け負う。四月から授産施設の利用者も加わり、工場は八十五人で稼働することになる。本田技研工業は「発注に当たっては正しい品質保証を可能とする生産工程を指導、確認してきた。作業の確さ、コスト面でメリットはある」と語り、授産施設の利用者たちに新たな目標と意欲をもたらすと期待する。

## 難しい職場への定着 法定雇用率の達成企業 県内は4割に満たず

知的障害者施設を運営する進和学園では、企業に就職がなかった利用者のうち、施設にUターン

する者が半数に上る。学園の授産事業で管理や交渉に携わる会社「研進」の出縄貴史社長は「(知的障害者は)作業能力があっても、コミュニケーションが不得手で定着できない者が多い」と現状を明かす。「彼らの安定した所得は、企業雇用だけでは保障できない。障害者を集めた福祉工場や授産施設が、多くの仕事を受注できる環境づくりが必要」と語る。一定規模以上の民間企業は、従業員の一・八%以上が障害者であることが義務づけられている。しかし、この法定雇用率を達成する企業は全国で約42%、神奈川県は40%に満たない。とりわけ大企業では清掃部門などで特例子会社を設立し、別の給与体系で知的障害者を雇うケースも多いという。出縄社長は、授産施設などへの仕事発注を法定雇用率に計上する「みなし雇用制度」や発注企業への助成の導入が有効と訴える。

## 平塚に県内2例目

知的障害者を直接雇用し、稼働を始めた「しんわルネッサンス福祉工場」は平塚市上吉沢